

ケアプランデータ連携システム 導入支援について

奈良県生駒市
(福祉部介護保険課)

令和6年6月26日

地方公共団体・連合会に向けたケアプランデータ連携システム活用ウェビナー 資料

生駒市の概要

●位置・面積

奈良県の北西端、大阪府と京都府に隣接。

交通の利便性と自然環境が両立する住宅都市として発展。

面積は53.15km²

人口は116,803人(県内3番目)

●第一号被保険者数

34,564人

(うち65～74歳：14,512人、75歳以上：20,052人)

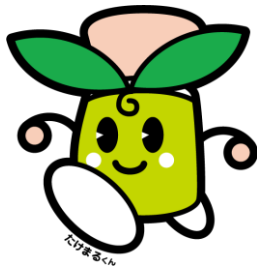
●高齢化率

29.6%

※令和6年6月1日現在



生駒市イメージ
キャラクター
たけまるくん



茶笥(ちゃせん)
日本の生産量90%以上

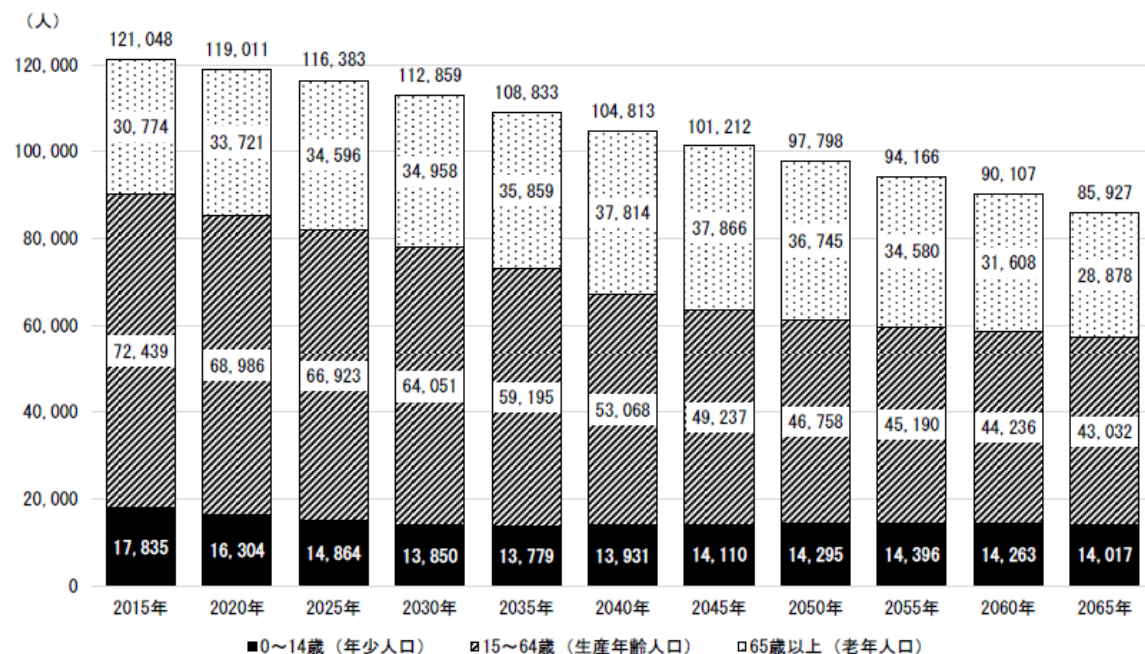


生駒山

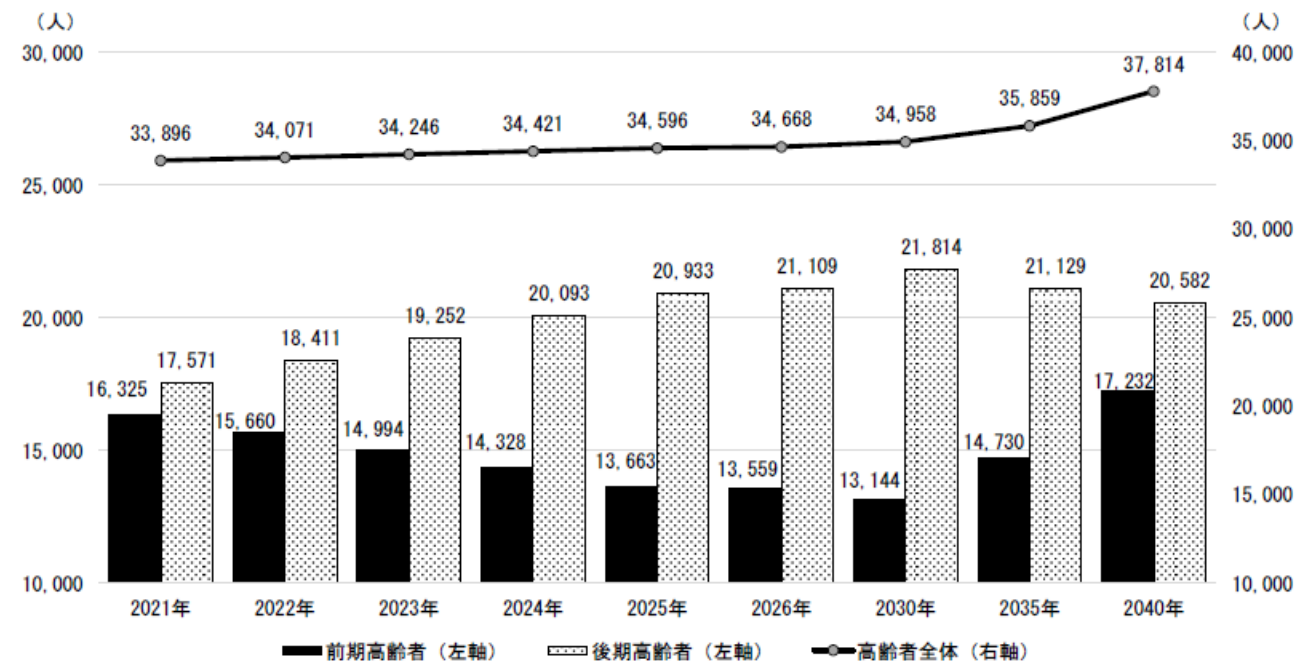
生駒市人口の将来推計

- ・65歳以上の人口は2045年まで増加する一方、生産年齢人口は減少し続ける。
- ・前期高齢者人口は2030年まで減少していく一方、後期高齢者人口は2030年まで増加。

●将来推計人口（年齢別人口）



●前期高齢者および後期高齢者人口の推計

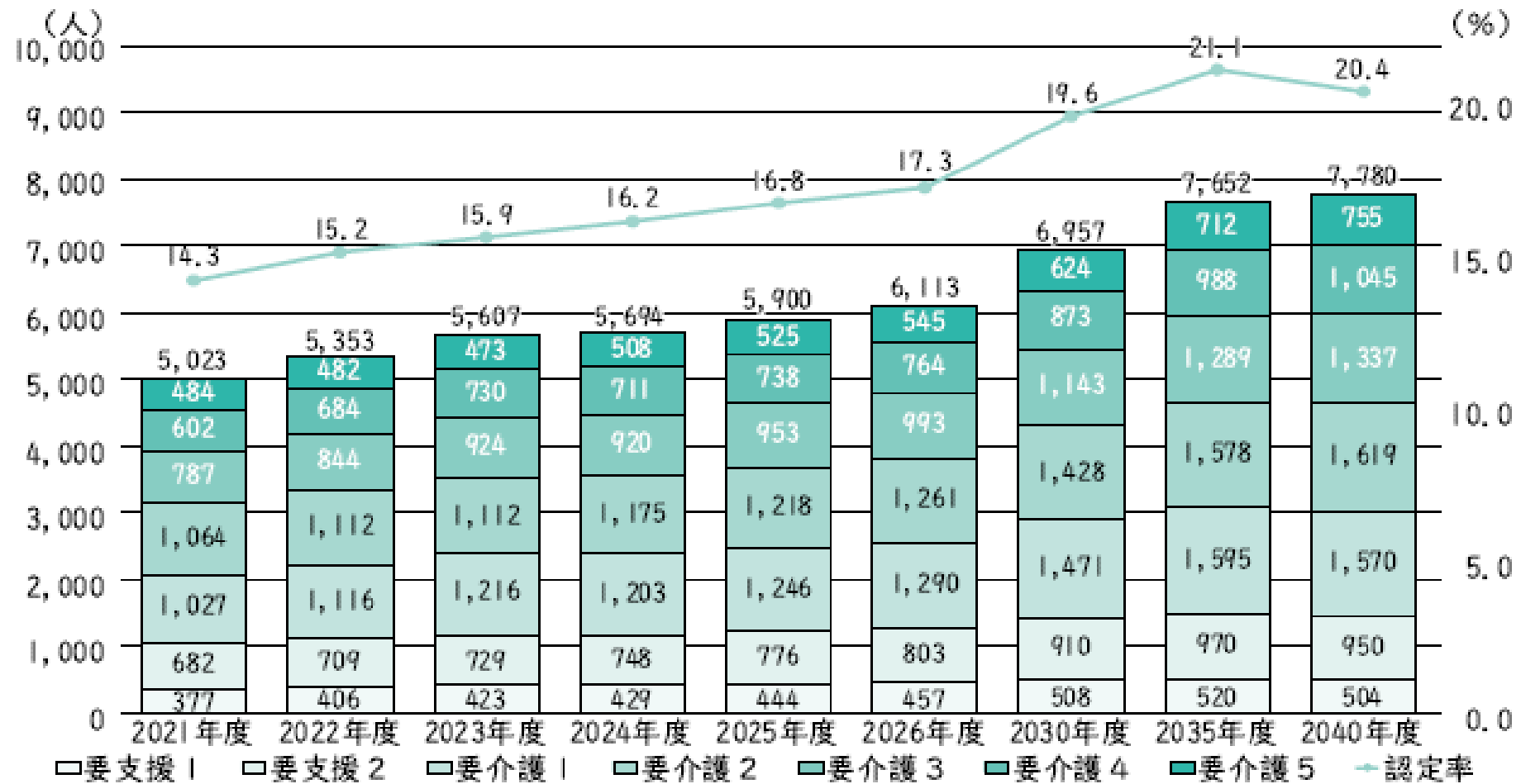


※2020年までは住民基本台帳による実績値、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所将来推計人口(2018年)を基に市独自の推計値。
 ※2025年以降は10位を四捨五入しているため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。

※2021年から推計値。

要支援・要介護者数と認定率の将来推計

➤ 生駒市の認定率は、早期から介護予防の取組に力を入れてきたこと等により、全国平均や県平均と比べて低いものの、高齢化に伴い上昇・増加傾向



※2021年度から2023年度は実績値。2024年度から推計値。

※実績値は各年9月末時点の数値を利用。

※2021年度から2023年度の認定率を用いて推計している。2024年度以降の性別年齢階級別の要介護認定者の割合は一定としている。

●日常生活圏域

10圏域

●地域包括支援センター

直営:1か所 委託:7か所

●居宅介護支援事業所

28か所

- ✓ 居宅介護支援事業所数は近年、横ばいの状態
- ✓ ケアマネジャーとして従事する者の高齢化も将来に渡る人材・サービス確保において課題

●その他の事業所 ()内は事業所数

訪問介護(30)、訪問看護(19)、訪問リハビリ(5)、通所介護(22)、通所リハビリ(6)、福祉用具貸与(5)、短期入所生活介護(6)、介護老人福祉施設(6)、介護老人保健施設(3)、認知症対応型共同生活介護(8)、認知症対応型通所介護(3)、小規模多機能型居宅介護(4)、定期巡回・随時対応型訪問介護看護(2)、看護小規模多機能型居宅介護(1)、地域密着型通所介護(12) ほか

令和6年5月1日現在

生駒市第9期介護保険事業計画(抜粋)

3 中長期的ビジョン

中長期的ビジョン設定の考え方

これまで本市が基本理念として目指してきた「住み慣れた地域で支え合いながら自分らしく安心して暮らせるまち いこま」を中長期的ビジョン(2040年の姿)として設定します。

地域共生社会とは

制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

ビジョン
(2040年の姿)

住み慣れた地域で支え合いながら

- 住み慣れた地域で自分が望む生活ができる
- 自身の関心や能力に応じて助け合い・支え合うことで、地域を共に作り、誰もが生きがいを感じ安心して暮らせる

自分らしく 安心して暮らせるまち いこま

地域共生社会

地域包括ケアシステムの深化・推進によって実現

80代以上人口の増加と生産年齢人口の減少

サービス基盤の整備	医療と介護の連携強化	災害時等の安定的なサービス提供体制の構築	介護予防・健康増進のいっそうの推進	社会参加の促進	地域住民等による日常生活支援	認知症施策の推進	家族介護者等への支援の充実	介護人材の確保・育成・定着	介護現場の生産性向上	効率的・効果的な介護給付の推進	地域包括支援センターの機能強化
-----------	------------	----------------------	-------------------	---------	----------------	----------	---------------	---------------	------------	-----------------	-----------------

基本目標

多機関・多職種の協働による支援の推進

- 多機関の協働や制度間の連携により複雑・複合的な課題を含む様々な生活課題に対応できる。
- 4つの場面(①日常の療養支援、②入退院支援、③急変時の対応、④看取り)に応じた医療と介護の連携体制が強化されている。

健康づくり・介護予防のいっそうの推進

- 市民一人ひとりが健康づくり・介護予防に取り組んでいる。
- 健康・医療・介護の情報の一元化による健康づくりから介護予防まで一体的な取組みが推進されている。
- 総合事業やリハビリ等を活用し、心身機能や生活行為の回復と維持ができています。

生きがいづくりや社会参加の促進、生活支援の充実を通じた地域づくり

- 多くの高齢者等が社会参加(就労的活動を含む。)をし、生きがいを持って暮らしている。
- 社会参加の進展により、地域における支え合いの仕組みが機能している。

認知症の人が尊厳を保持し希望を持って暮らせる社会の実現

- 認知症の人ができる限り地域で自分らしく暮らし続けることができている。
- 認知症の人の意見が尊重され、適切な意思決定支援・権利擁護が行われている。
- 認知症の人を地域で見守り、支援する体制が構築されている。

持続可能な介護保険制度の推進

- 社会環境の変化を見据えたサービス基盤・人的基盤が整備されている。
- 家族介護者等への支援が充実している。
- 介護現場の生産性向上(業務の効率化とサービスの質の向上)ができている。
- 地域包括支援センターの機能強化により高齢者や家族に寄り添った支援ができています。
- 介護給付が過不足なく適正に提供できる体制がある。

施策・事業

- 1 高齢者を支える地域の体制づくり
- 2 在宅医療・介護連携の促進【重点施策】
- 3 高齢者の住まいの確保と住替え支援
- 4 虐待防止・権利擁護の推進
- 5 高齢者にやさしいまちづくりの推進
- 6 制度・分野間で連携した重層的支援体制の構築【重点施策】
- 7 災害・感染症に対する備え

- 1 健康づくりから介護予防まで一体的な取組みの推進
- 2 自立支援に向けた介護予防・重度化防止の推進【重点施策】
- 3 介護予防・日常生活支援総合事業の充実

- 1 生きがいづくり活動の推進
- 2 社会参加の促進・就労的な活動支援
- 3 地域活動の推進
- 4 介護予防・日常生活支援総合事業の充実【重点施策】
- 5 支え合い活動の推進【重点施策】

- 1 認知症の正しい理解の促進
- 2 認知症予防の促進
- 3 医療的ケア・介護サービスの充実
- 4 認知症の人および家族等に対する相談体制等の充実
- 5 認知症バリアフリーの推進
- 6 若年認知症の人への支援
- 7 認知症の人の社会参加支援【重点施策】
- 8 認知症の人の意思決定支援および権利利益の保護【重点施策】

- 1 介護サービスの基盤整備と家族介護支援の充実
- 2 人材の確保・育成・定着、資質の向上【重点施策】
- 3 介護現場の生産性向上・業務改善への支援【重点施策】
- 4 地域包括支援センターの職員の資質向上及び業務の質の平準化
- 5 介護給付適正化の取組みの推進

2040年に向けた中長期的な課題

80代以上人口の増加と生産年齢人口の減少

介護サービスの需要が変化していく一方で、生産年齢人口の急減に直面することを踏まえ、地域の高齢者介護を支える人的基盤の確保や介護現場における生産性の向上の推進等がますます重要となります。



重点施策

●人材の確保・育成・定着、資質の向上

介護職員初任者研修受講就労支援事業、介護に関する入門的研修、ケアリンピック生駒 ほか

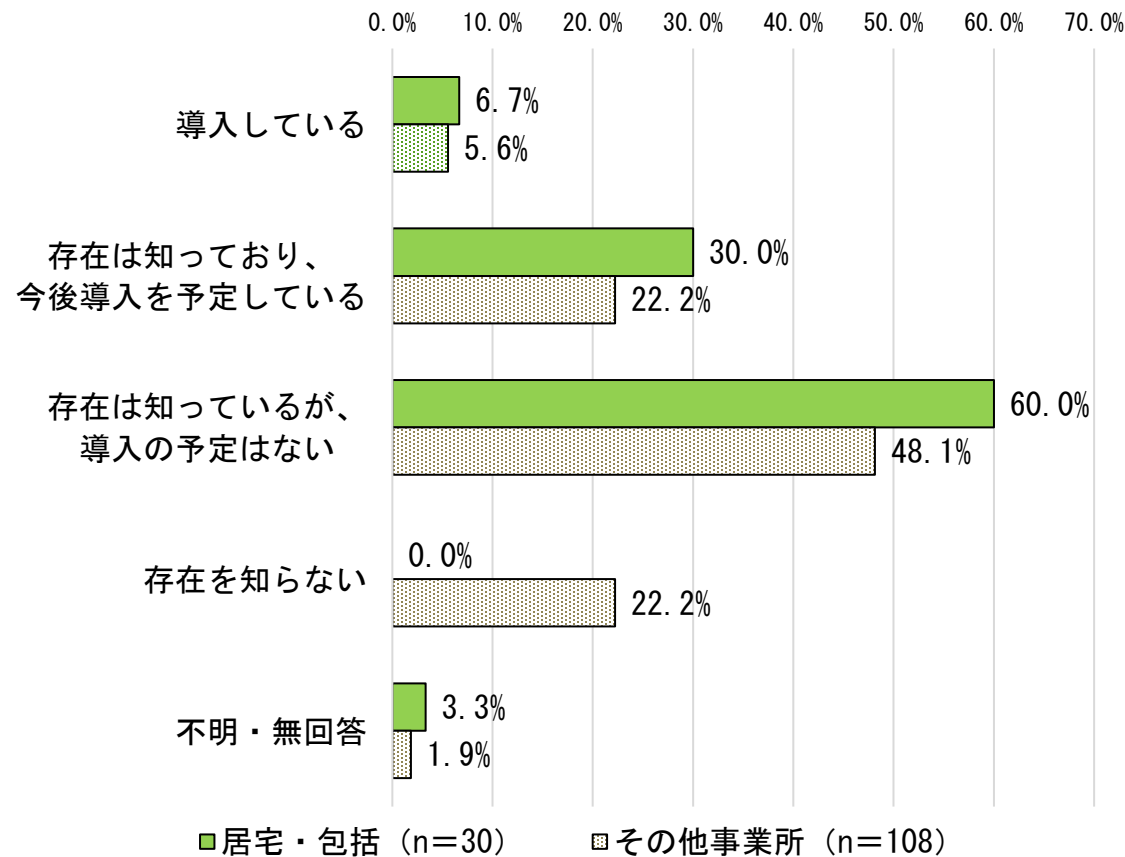
●介護現場の生産性向上・業務改善への支援

ケアプランデータ連携システム導入支援、事業所指定等申請業務の電子化・標準化 ほか

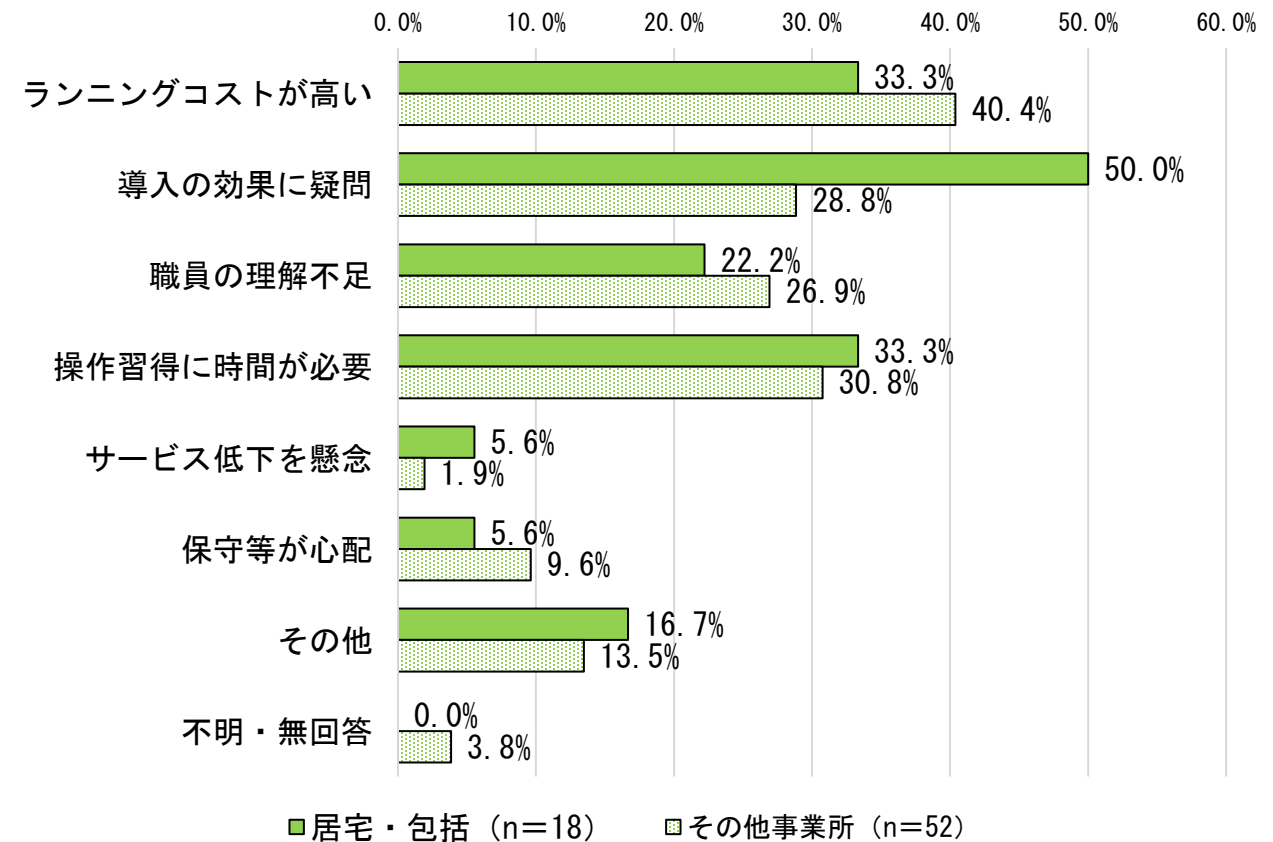
ケアプランデータ連携システムの導入に係る事業所の意向

- 導入状況については、「(システムの) 存在は知っているが、導入の予定はない」という回答が最多。
- 導入しない理由については、「ランニングコストが高い」、「導入の効果に疑問」、「職員の理解不足」、「操作習得に時間が必要」などが多い。

ケアプランデータ連携システムの導入状況



ケアプランデータ連携システムを導入しない理由



生駒市におけるケアプランデータ連携システム導入支援

👉 アンケート結果を踏まえ、効果や操作方法の普及啓発 と 導入に係る補助をセットで実施

アンケートで分かった事業所の懸念

- 導入の効果に疑問
- 職員の理解不足
- 操作習得に時間が必要

- ランニングコストが高い



本市における導入支援

事業所向けの研修会開催

- ・ 厚労省、国保中央会から意義や効果、使い方について説明
- ・ 実際に触れるデモ体験も実施



市独自の事業として ライセンス料の補助制度創設

ケアプランデータ連携システム研修会

～市主催による県内初開催～

- 開催日時：令和6年5月14日(火)、15日(水)の2日間 同内容を計3回（2時間）
- 対象者：市内介護事業所
- 講師：厚生労働省 老健局 高齢者支援課
介護業務効率化・生産性向上推進室 室長補佐 秋山氏
国民健康保険中央会 介護保険課 泉氏、磯邊氏
- 研修内容
 - ① 「介護現場の生産性向上等を通じた働きやすい職場環境づくり」
 - ② ケアプランデータ連携システム研修会・質疑応答・デモンストレーション
 - ③ 生駒市ケアプランデータ連携システム導入支援補助金の申請等について
 - ④ ケアプランデータ連携システムのデモ体験



ケアプランデータ連携システム研修会当日の様子



厚生労働省 老健局より説明



国民健康保険中央会より説明



デモンストレーション体験

2日間・全3回（各回の内容は同一）の研修会に、延べ96名が参加。

研修会アンケート結果①

- 参加者の属性については、「経営者・管理者」「現地スタッフ」のどちらも多かった。
(同じ事業所の経営者・管理者と現地スタッフが一緒に参加している場合も多かった。)
- システム導入にあたっては、「使いやすいシステムかどうか」が最も重視されている。
次いで、「現場負担の軽減」「サポート体制」「安心安全」が重要視されている。

参加者属性	回答数
経営者・管理者	31
現地スタッフ	22
その他（主に事務）	18
IT管理者	3
未記入	12
総計	86

導入にあたり重視すること（複数回答）		回答数
1位	使いやすいシステムかどうか	65
2位	現場の負担が軽減されるかどうか	53
3位	サポート体制が整っているか	31
4位	安心安全なシステムかどうか	30
5位	周囲の評判や口コミ	3
6位	知名度やお墨付き	1

研修会アンケート結果②

導入意向について	回答数
今年度内に導入予定	25
導入済み	12
3カ月以内に導入予定	5
1か月以内に導入予定	2
導入したくない	1
未記入	41
総計	86

☞ 研修会に参加した事業所のうち「導入済み」「未記入」(※)を除くと、**約97%**の事業所が今年度内に導入をする意向

(※) 「未記入」については、研修会に参加した者が導入についての決定権を持っていなかった等

自由記載(一部抜粋)

- 実際の操作のデモンストレーションを拝見して、イメージがとてもよく分かりました。
- 活用してみないとわからないが、活用していきたい。
- 実績、給付管理だけでもすぐに利用したい。
- ぜひ80%以上の事業所が参加されるようにしていただきたい。少数なら意味がない。
- 事業所で推進しようとしている段階であり、導入したいと考えています。
- 実績業務に時間を要していたので、これを用いることにより業務効率化が図れることに期待します。
- 補助金などのサポートがあるのでありがたいです。

生駒市ケアプランデータ連携システム導入支援補助金

- ライセンス料を全額補助（令和8年度までの3年間限定）し、導入時の金銭的コストに対する懸念を解消
- 市内の面的導入を促進することで、システムの効果を実感しやすい環境づくりにもつながる。

● 対象事業者

1. 市内に事業所又は施設を有し、介護保険法第8条に規定する介護保険サービスのうち、以下のサービスを提供する事業所であること。

・訪問介護 ・訪問入浴介護 ・訪問看護 ・訪問リハビリテーション
・通所介護 ・通所リハビリテーション ・福祉用具貸与
・短期入所生活介護 ・短期入所療養介護（介護老人保健施設）
・特定施設入居者生活介護（短期利用） ・居宅介護支援
・定期巡回・随時対応型訪問介護看護 ・認知症対応型通所介護
・小規模多機能型居宅介護 ・看護小規模多機能型居宅介護
・地域密着型通所介護 ・認知症対応型共同生活介護（短期利用）
・介護予防支援

2. 補助金の申請時点において、介護サービスの提供に係る給付実績があり申請日以降も継続する予定であること。
3. この補助金の交付対象となる経費（以下、「補助対象経費」という。）について、重複して他の法律又は予算制度に基づく補助金の交付を受けていないこと。
4. 市税等、市の徴収金に滞納がないこと。

● 補助対象経費

補助対象事業者が導入するケアプランデータ連携システム（公益社団法人国民健康保険団体連合会が作成したものをいう。）のライセンス料。その他の導入に必要な経費は対象としない。

● 補助金の額等

1事業所あたり 21,000円（1年度につき1回限り）

※3年間（令和8年度まで）実施

※ 市単で実施しつつ、県には補助の実施を要望中。

第6回地域共生社会推進全国サミット in いこま

8月上旬頃 参加申込受付開始！



1 開催概要

- (1) 開催日 令和6年10月11日(金)、12日(土)
- (2) 開催方法 現地参加
- (3) テーマ 誰もが居場所と出番があるまちに～お互いさまからありがとうの連鎖へ～

2 プログラム(案)

第1日目：10/11（金）

時間	場所	プログラム	登壇者	
12:50	たけまるホール	アトラクション	登壇者	生駒山麓太鼓保存会
13:00		開会式	登壇者	市長、来賓
13:20		基調講演	登壇者	大島一博氏（厚生労働事務次官）
14:30		生駒市の事例紹介	テーマ	検討中
15:50		アトラクション	登壇者	STYLEY パラチア（障がい者ダンス）
16:00		特別企画	登壇者	山崎亮氏（studio-L）
17:10	南コミュニティセンター	総評	登壇者	山崎史郎（内閣官房参与）
18:30		交流会	登壇者	市民吹奏楽団

第2日目：10/12（土）

時間	場所	プログラム	登壇者（案）	
9:30	市内の取組先	視察 ※ア	テーマ	まちの駅等の市内の取組
	たけまるホール	分科会A ※イ	テーマ	未来を拓く子育て・教育
13:00	たけまるホール	分科会B	テーマ	地域で生きる～居場所・出番のあるまち～
	コミュニティセンター	分科会C	テーマ	分野を越境するまちづくり
14:40	たけまるホール	アトラクション	登壇者	小学生による吹奏楽
14:50		特別講演	登壇者	村木厚子氏（内閣府孤独・孤立対策推進室参与）
16:20		引継式	登壇者	市長、次回開催市（加賀市）